



高野耀子ピアノリサイタル



2018/11/23(金祝)

14:00 開場 / 14:30 開演

ミュージックサロン経堂・ホール

< 曲目 >

モーツァルト「キラキラ星」

シューマン「子供の情景」

ドビュッシー「月の光」

「子供の領分」

※曲目は変更になる場合がございます

[チケット]

60 歳以上 2,000 円

(60 歳未満

・スガナミ楽器在籍生 2,500 円

・その他一般 3,000 円

※全て税込・全席自由

スガナミ各教室受付にて販売中

定員 80 名

お問い合わせ：03-3425-9151(西澤・土田)

「音楽、なんと日本語は素晴らしいだろう！」音楽すなわち音のたのしみ、又は音による楽しみと云うことである。

だから、紙に書かれた段階では、曲は音楽とは云えない。

音号のようなものが解説され、音になおされ、意味を託されて生命を与えられた時に初めてそれが音楽と呼ばれるものになり得るのである。

「なり得る」などと云う云い方を何故するかと云えば、どんなに優れた作品でも運が悪ければ「音が苦」にだって変容してしまうからである。

音が苦の種類は色々あるが、楽譜の読み取り方によっては、まるでかな文字で書いてある電文を、日本語を知らない人が棒読みにしたような結果を生じた時とか、生死にかかわるかのように、大急ぎに、なるだけ速く、しかも出来るだけ大きな音でかなり立てられた時とか、作品の書かれた時代や背景を実に良く考慮し、意味も正しく読み取り、誠意をもって真面目に音にしても、結果が死ぬほど退屈になってしまったり、音が苦に出っくわす機会は数かぎりなくあるのである。

一体何によって、ただ単に重なり合ったり続いたりしているいくつかの音が、四肢を躍動させたり静めたり、恋心を起させたり、ちゃめっけで笑わせたり、勇敢な気持ちにさせたり、心を感動させて涙を流させさえし、敬愛な気持ちで永遠の生命に近づけさせたりする力をもつ音楽になるのだろうか？

————— エッセイ「生きること、音楽すること」高野耀子 より一部抜粋。

今 私たちに語りかけるその音楽をかけがえのない思い出の1ページに。

高野耀子 (こうのようこ)

1931 年、高野三三男画伯の娘としてパリ モンパルナスに生まれる。4 歳からピアノを始め、7 歳でマグダ・タリアフェロに習う。1940 年、日本へ帰国。ピアノを安川加寿子に師事。1946 年、15 歳の時、最年少で東京音楽学校 (現、東京藝術大学) に入学。3 年の時に中退してパリに戻り、コンセルヴァトワール (現、国立高等音楽院) に入り、ピアノをリュセット・デカーブ、室内楽をジョセフ・ベンヴェヌーティに学ぶ。19 歳でコンセルヴァトワールをプリミエ・プリで卒業。翌年、同音楽院室内楽部を卒業。その後 3 年間、ドイツのデトモルト音楽院でハンス・リヒター・ハーザーに師事。

1954 年、イタリアのヴィオッティ国際音楽コンクールのピアノ部門で満場一致で優勝。これは、日本人として初めての国際コンクールでの優勝である。

以後、年間 5 ～ 60 回の演奏会をこなし、パリ、ロンドン、ベルリン、ローマ、ミラノ、ブダペスト等ヨーロッパ主要都市を中心に演奏活動を展開する。共演したオーケストラはロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ミラノ・スカラ座管弦楽団、ヴェネツィア・フェニーチェ劇場管弦楽団、ミケランジェリ・ピアノフェスティヴァル・オーケストラをはじめ多岐にわたる。1965 年より 4 年間、アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリの薫陶を受ける。

1979 年より、東京に在住。以降、東京を中心に各地でリサイタルを開催している。

会場：ミュージックサロン経堂・ホール

東京都世田谷区宮坂 2-19-5 ピーコック 3 階

TEL:03-3425-9151

- 小田急線「経堂駅」下車 徒歩 2 分
 - 小田急バス (渋谷駅・梅ヶ丘駅系統、千歳船橋駅系統)「経堂駅」下車 2 分
- ※専用駐車場はございません。

